

エゾマツ

ボランティア・レン
ジャー「エゾマツ会」
平成元年7月25日

発行責任者 河村千束

新任ごあいさつ

里

北海道保健環境部自然保護課長 堤 範之

目に入る木々の緑も一段と子^後さを増し、そよ風もほんのりと暖かく、自然のこころ良さを一層感じさせる季節となりました。

本年4月の人事移動で自然保護課長を拝命いたしました堤でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

北海道ボランティア・レンジャー協議会は、自然観察や自然保護に関する意識の高揚、自然解説等を通しての自然保護思想の普及啓発、会員相互の親睦等を目的に発足され、本年で4年を迎えられたわけですが、これまで、自然観察等ご助言をいただいている皆様方に厚くお礼を申し上げますとともに、日頃のご活動に対し心から敬意を表し感謝申し上げます。

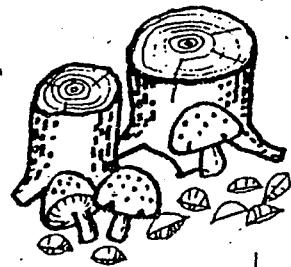
現在、全国的に緑に対する関心や自然とのふれあいを求めるニーズが高まっており、人と自然との橋渡し役である皆様方の役割は、今後ますます重要なものとなっていくものと考えております。また、ボランティア・レンジャーで一つの事を成し遂げていくには、人の和がなによりも大切ではないかと感じております。

志を一つに集まった皆様方がこれまで培ってこられた和をさらに強めていただき、また、多くの方々ご参加のもとにその和を広げられますことをご期待申し上げます。

最後に、皆様方のご健康と一層のご活躍、そして、貴協議会のますますのご発展を祈念申し上げ、ごあいさつといたします。

みんなの力 —— 詩集「どろがめさん」 —— 高橋延清

スキーで歩く
ささをこいでも歩く
四十キロの予定路線をゆきかえりする
施業区の者が先頭だ
所長がつづく
調査や伐採の係もいる
処分や造林の係もいる
土木の係もブルの運転者もいる
キラセソキの林長もガンバッている
この路線でいいのか
どこを伐り、どこに植えるのか
ディスカッションがはじまる
結論がでる
みんなの力が結集する
そこに発展の方向がある



野幌森林公園「春の森林観察会」に参加して

吉田 真紀子

5月21日(日)は朝方こそ曇っていたものの、ほどよい風邪があり軽く汗ばむくらいのお天気でした。少し遅れて到着したためすぐ出発となり、最後の班に加わって行くことになりました。参加者は30人程度でボランティアでは河村会長、大友さん、吉住さん、玉田さんが見えており、各班に分かれて熱心に解説されていました。コースは大沢口～エゾユスリハ～四季美～大沢園地(昼食)～カツラ～大沢口と歩く約6 Kmの行程でした。公園の中は若葉もしっかりと伸びて、緑の香りも一段と強く感じられます。エゾニワトコ、オオカメノキは花盛りでイタヤカエドも淡黄色の雄花を葉陰にのぞかせています。春真先に顔を見せるシウリザクラは元気さのわりにはずかしがり屋とみえて、総状のつぼみをやっとなつけていました。カツラの小ぶりの可愛い葉や、イヌエンジュの清楚な薄緑の葉がとても印象的でした。

鳥たちも思いおもいにコーラスし、いったい何種類いるのか判らない賑やかさです。それでも耳を澄ますと、ウグイス、センダイムシクイ、オオルリ、コルリ、ヤマゲラ、ヤブサメ、ツツドリなどなど聴き分けられます。コマドリらしい声もありました。圧巻はスタートから1時間ほど歩いた頃、耳に飛び込んできたトラツグミの不思議な声でした。口笛とも呼び声ともつかない何とも形容しがたい声でした。夜中や、雨模様朝などにはよく聞かれるようですが、この日のように晴れた、しかもお昼近くに泣くのは珍しいようです。別名を「ぬえ」ともいい、昔から物の怪として伝えられていた割には澄んで少し寂しいけれど美しく感じられたのは、五月の風のせいでしょうか。

草花も多彩でヒトリシズカが集団で咲いていたり、ホウチャクソウやオオクチツボスミレやひときわノッポのコウライテンナンショウ、ツクバネソウとエンレイソウが仲よく一つの群れをつくっていたり、次から次へと楽しませてくれます。もう盛りを過ぎたかな?と思っていたニリンソウはまだ健在のものがあり、その一群れのなかにミドリニリンソウは、緑のほかに白の縁どりも鮮やか、四葉のクローバーのように、これを探す人もいるとか……。

毎回、初めての方が何人かはいらっしゃるのですが、今回も「自然に関しては全く知識なくて……」とおっしゃる方がいて、私なりに感じている事をお話ししました。幸い前出のミドリニリンソウのおかげで、退屈されずに過ごされたようで、解散になってお礼を言われた時には、あまりにお粗末な案内にかえって恐縮すると同時にホッとしました。いつも自分の知識の乏しさにボランティアレンジャーとして自信がもてないのですが、たった一人でも私の話から、自然の楽しさを知り興味を抱いてもらえたら良いのではないかと考えています。教えるのではなく、同じ目線で様々な楽しみ方を一緒に考えていきたい……そんな思いを抱いています。そんなことまで考えさせてくれる自然の偉大さを、改めて感じた1日でした。



北大校内ミニ観察会

玉田 紀美子

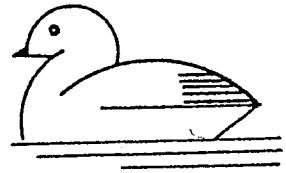
5月1日予定した植物園が休日のため北大校内に変更する。植物に詳しい高橋美智子さんと野鳥に詳しい高橋雅子さんと一緒に私は何かと心強い事でした。

校内ではカワラヒワとカラ類の元気なさえずりに出迎えを受け、タンポポの真っ盛りでローンは黄色に輝いていました。雑木の林床ではニリンソウ、エゾエンゴサク、エンレイソウ、私の好きなキバテノアマナ等の早春花が咲いていました。

ゆったりのんびりさえずりに足を止めたのはアオジでした。キジバト、シジュウカラ、ホウジロ、つかいで見たのはコムクドリ、オスの玉ねぎをつけたようなピエロの顔、メスのまんまるい目をした横顔のかわいかったこと。

クラーク会館の近くでオニグルミの大木を背にして昼食をする。いつの間にか近くの木に北に移動の途中なのかイスカの群が来ていました。オスのオレンジ色の派手なのと反対にメスの地味な色。初めは二種類の鳥の群ではないかと思いました。その下ではムクドリ親子の威勢堂々と歩く姿に見とれ、上と下と同時に観察することになり、双眼鏡持つ手は震えるし、首は硬くなるし、おにぎりは食べなきゃならないし大変忙しい観察会をしました。

いつ植えたのかプラタナスの大木のなみ木があり、5センチメートル程の去年の実がぶらさがり壮観でした。エルムの学園といわれるにふさわしくハルニレの多いこと、数百年はたったと思われる大木の空洞の部分にコンクリートでふさぎ痛々しい姿のハルニレの大木がありました。ミニ観察会としては見ごえのある一日でした。



「みどりの日」親子自然観察会に参加して

沖館紀子

元号が「昭和」から「平成」に変わって、はやいもので半年がすぎました。

去る4月29日、第一回「みどりの日」制定記念ということで、旭川営林局、旭川営林署、旭川市他の共催で行われた親子自然観察会に、小3の息子と参加しました。場所は嵐山北邦野草園。肌寒い曇り空の下約150人の参加者を迎えてくれたのは、カタクリ、エゾエンゴサク、アズマイチゲ、ザゼンソウなどの可憐な野草たちでした。営林署の方の説明で、園内を班ごとに40分ほどかけて散策しました。樹木の名の由来などおもしろく解説していただきました。

そして、石狩川と東海大学をのぞむ芝生の上で野鳥の声をBGMに、あつあつの豚汁とおにぎりをほうばりました。

ただ、残念だったのは、この日確認できたのが、アカゲラ、シジュウカラの2種類だけだったことです。

また、この日の午後、嵐山の入口にあたる旭岡に、民間の運営する「嵐山ビジターセンター」がオープンしました。いろいろユニークな活動をしています。自然を大切に思うひとりとして期待しています。

以上、今年のゴールデンウィークは、美瑛、富良野、美唄と近郊をお花見を兼ねながら(?)のバードウォッチングに終始した次第です。こことうぶん(?)ウォッチング熱が続きそうです・・・

植樹祭に参加して

八戸 克美

去る5月7日(日)、快晴の中、午前10時から朝里川温泉付近の雑木林で、市民による植樹祭が行われました。

この集いは、北海道ボランティアレンジャーの2期生の野月筆雄氏が代表委員となり、「小さいながらも緑の楽園をみんなの手でつくりあげよう」と、「北海道ボランティア・レンジャー山川草木を育てる集い」が発足しました。

植樹地は、温泉街から約2 Km入った山林で約2ヘクタールの所に、今年はアカエゾマツ、トドマツ、ニオイヒバ、ナナカマド、クリの5種類計500本と、道より寄贈のモンゴルアカマツ5本、日高の末吉千恵さんから小リンゴの苗5本の寄贈がありました。

式典は午後10時から、どろかめ先生(高橋延清東大名誉教授)を交えて、札幌や小樽などから、約65人が参加しました。

参加者の中には、「北海道ボランティア・レンジャー協議会員」も、大友副会長をはじめ、小山広報部長、山本政司氏、小竹数博氏、住吉光子さんが出席しました。

道からも今野前自然保護課長、堤自然保護課長、大森主査、青井前保全係長、永野氏、森本氏も参加しました。

進行順序は①開会宣言があり②代表運営委員挨拶③ボランティア・レンジャー会旗の掲揚につづいて④山川草木の集いのきめごと紹介⑤入山利用の説明⑥樹木の紹介⑦栽培方法の説明⑧記念植樹⑨記念撮影会⑩参加者の記念植樹、その後屋食及び自由時間となり、午後からどろかめ先生を囲み、車座になっての懇談会が開かれた。高橋先生は「一人ひとりが平等に参加できる植樹祭はすばらしい。世界的に緑が減少し、地球的規模で環境が狂っている」と話され、木の大切さをみんなで再確認しあった。

又、集いを呼びかけた、野月氏は「自然に親しみ、自然とふれあい、森林を体験し、森林を守り、小鳥や獣を育て、森林を通して人々の親交を深め、緑豊かな潤いの森林づくりを後世の人々に引き継ぎたい」と呼びかけていました。

又、この日は天候にもめぐまれ、一日楽しくすごすことができました。

植樹祭にかかった表は野月氏的全額個人負担で行われました。



ポランティア保険がさらに充実しました

この保険は、ポランティアの皆さんが本保険に加入することによって、ポランティア活動中に、
 ①ポランティアがケガをした場合の「傷者保険」との第三者の身体または財物に損害を与えた場
 合に賠償金(賠償料)を請求する「賠償責任保険」をキャッチしたものです。

この保険での保障内容

保 険 者 の 保 険 料	支払いはいる金額		付 保 に な る 場 合	具 体 的 な 例
	元	円		
1 年 500万円	500	万円	ケガのため事故の日から180日以内 不慮に死亡した場合は	○加入者がポランティア活動中事故に より、不慮に死亡したとき ○所収でポランティア活動中、階段で 足を踏み外してケガをされたとき ○児童のポランティア活動中、加入者が 車にはねられたとき ○老人ホームなどで活動中、ガラスで 傷をもらったなどの場合
2 年 500万円	500	万円	ケガのため事故の日から180日以内 に身体の一部を負った時、その損傷に重 大な障害を永久に残された場合	○加入者が子どもやケガ引継ぎの 引継ぎ中、児童にケガをされたとき ○不慮に死亡したとき ○ポランティア活動中、監督または作 業上のミスで個人、個人がケガを 負ったとき ○福祉施設でポランティア活動中、ケ ガを引継ぎしてケガを負ったとき
3 年 500万円	500	万円	ケガのため通院又は入院して医師の治 療を受けられた場合	○子供の通院中、ケガを引継ぎの ケガを引継ぎしたとき
4 年 500万円	500	万円	ケガのため通院又は入院して医師の治 療を受けられた場合	○子供の通院中、ケガを引継ぎの ケガを引継ぎしたとき
5 年 500万円	500	万円	ケガのため通院又は入院して医師の治 療を受けられた場合	○子供の通院中、ケガを引継ぎの ケガを引継ぎしたとき
6 年 500万円	500	万円	ケガのため通院又は入院して医師の治 療を受けられた場合	○子供の通院中、ケガを引継ぎの ケガを引継ぎしたとき
7 年 500万円	500	万円	ケガのため通院又は入院して医師の治 療を受けられた場合	○子供の通院中、ケガを引継ぎの ケガを引継ぎしたとき
8 年 500万円	500	万円	ケガのため通院又は入院して医師の治 療を受けられた場合	○子供の通院中、ケガを引継ぎの ケガを引継ぎしたとき
9 年 500万円	500	万円	ケガのため通院又は入院して医師の治 療を受けられた場合	○子供の通院中、ケガを引継ぎの ケガを引継ぎしたとき
10 年 500万円	500	万円	ケガのため通院又は入院して医師の治 療を受けられた場合	○子供の通院中、ケガを引継ぎの ケガを引継ぎしたとき

ただし、本人の事故に対する医療給付の対象となる治療日数は、いかなる場合も治療の日から連続(90日)
 以内(180日)が限度となります。
 ・自然死・生命保険などに因る死亡保険金を支払いたしません。
 ・他人の事故・別物事故は、いずれも免責(自己負担)1000円とします。

掛金

・1名につき300円です。
 (掛金はいずれの時期に加入しても300円とされます。)

保障期間

・毎年4月1日から翌年3月31日まで(加入年度)です。
 (中途加入の場合は加入日の翌日から有効になります。)

取扱う保険会社

・特保会社 日本火災海上保険株式会社(全国各支店)

加入台帳記入例

昭和57年4月1日

保 険 加 入 台 帳
 (市区町村社会福祉課)

法 団 体 名 () 渋谷区社会福祉協議会
 所 属 名

順 号	姓 名	住 所・電話番号	備考(グループ名・活動内容)
1	木村 淳	渋谷区代々木 1-1-103	トヨタ会・書記
2	梅垣 美代子	渋谷区代々木 1-1-103	
3	橋本 雅子	渋谷区代々木 2-1-10	
4	河合 正人	目黒区東横 6-1-15	
5	早田 真二	渋谷区上原 2-1-7	
6	黒川 明子	渋谷区代々木 3-1-1	
7	船野 敦子	渋谷区東横 5-1-30	
8	立花 真理	世田谷区代々木 7-1-1	
9	宮川 雪子	世田谷区北沢 6-1-12	
10	石塚 路一	渋谷区東横 1-1-19	

※グループ等で既に名簿がある場合には、三部複写してご持参ください。加入申込書に
 代えることができます。

※お申し込み、ご照会は下記の市区町村社会福祉協議会
 ポランティアセンターに



東京都千代田区霞が関3丁目3番4号
 全国社会福祉協議会
 全国ポランティア活動推進センター
 TEL 03-581-4655 (直通)

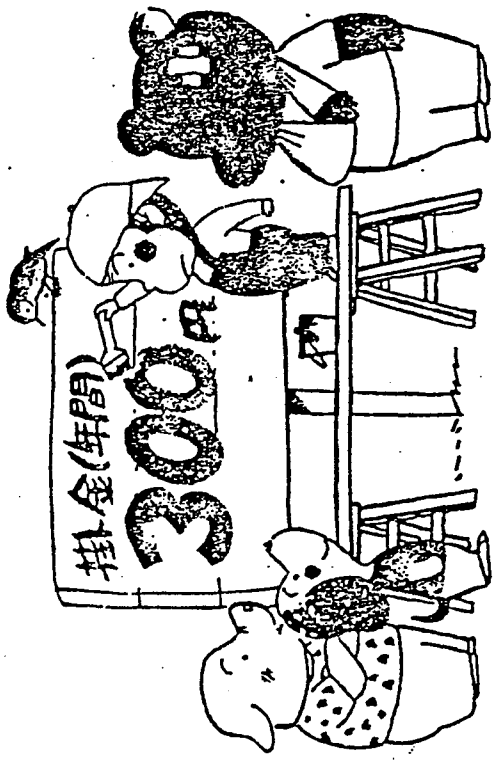
活動中の事故に備えるために

ボランティア保険

* 傷害保険 (ボランティア自身のケガ)

プラス

* 賠償責任保険
(活動中、他人の身体、財物に損害を与えたとき)



安心してボランティア活動を！

社会福祉
法人
全国社会福祉協議会
全国ボランティア活動振興センター

ボランティア保険に加入できる方は…

- ・ボランティア活動に参加する方
 - ・ボランティア推進機関・団体の役員
- ※小・中学生等も加入できます。

この保険でいうボランティア活動中とは…

- ・無給で、自動活動でないこと
- ・この保険では、活動場所への往復やボランティアの学習会、活動の企画・運営会議等への参加も活動中とみなします。

保険金をお支払いできない主な例

- 傷害保険**
- ▽加入者の故意によるケガのとき
 - ▽地震・噴火・津波等天然地災のとき
 - ▽加入者の自殺行為または犯罪行為によるケガ
 - ▽戦争・暴動・労働争議によるケガ
- 賠償責任保険**
- ▽故意
 - ▽自動車・オートボートや航空機で起こした事故
 - ▽自らの職務に対する事故
 - ▽旅客による事故

※自動車による事故は、加入者自身のケガのみが対象となり、対人・対物事故等の賠償責任については対象となりません。

加入手続

所定の用紙(加入台帳)にご記入のうえ、お金を添えて、もよりの市区郡町村社会福祉協議会のボランティア担当窓口にお申込みください。(一面加入台帳記入例をご参照ください。)

事故が起きたら…

ただちに、加入手続きをした社会福祉協議会に、

1. 事故日
 2. 場所
 3. 事故内容
- を必ず連絡して下さい。



野幌自然フォーラム実施要領

1 目的

17回を迎える環境週間の関連行事の一つとして野幌森林公園において自然観察会を行うとともに、北海道開拓の村において自然をテーマにしたフォーラムを開催することにより、自然に親しみながら自然の仕組みや効用、適正な利用の方法等について知識と理解を深め、ひいては自然を大切にする気持ちや住みよい環境づくりの機運の盛り上がりを図る。

2 日時

平成元年6月11日(日)

- ・集 合 9:30
- ・オリエンテーション 9:30~10:00
- ・自然観察会 10:00~12:00
- ・昼 食 12:00~13:00
- ・自然フォーラム 13:30~15:30

3 場所

- ・自然観察会集合場所：野幌森林公園内百年記念塔下広場
- ・自然観察コース：瑞穂コース
- ・自然フォーラム：北海道開拓の村旧札幌停車場第2ホール

4 対象

小中高生及び一般を対象とするが、自然フォーラムは、場所の都合から定員を50名程度とする。

5 主催：北海道、北海道大学環境科学研究科

協力：北海道ボランティアレンジャー協議会

(財)北海道開拓の村

6 内容

(1) 自然観察会

公園内を歩きながら、初夏の樹木、草木、野鳥、昆虫などの自然観察を行い、自然と肌で接することにより、自然の仕組みや大切さ、利用や観察の方法などを学ぶ。

(2) 自然フォーラム

北海道開拓の村において、自然に関する話題提供、フリートーキングなどを通じて自然に対する知識と理解を深める。

コーディネーター

北海道大学環境科学研究科

教授 小野 有五 氏

ア 話題提供（自然を考える）

・ 謎のネイチャーウォッチング……………野幌森林公園事務所公園管理部
公園利用課長 村野 紀雄 氏

・ 野幌森林公園のおもしろさ…北海道大学環境科学研究科
教授 伊藤 浩司 氏

イ フリートーキング

7 申込み受付方法

下記にて申込み受付を行う。

- ・ 道自然保護課主査（公園・普及） ☎231-4111内線3898
- ・ 野幌森林公園事務所公園利用課 ☎898-0455-0459
- ・ 石狩支庁林務課自然保護係 ☎231-4111内線3788

8 申込み期限

平成元年6月9日（金）までとする。

9 周知（広報）方法

申込み要領を作成し、新聞等による広報及び開拓記念館等において
掲示を行う。

10 交通機関

- ・ JR森林公園駅下車徒歩20分
- ・ 地下鉄新さっぽろ駅（出口5番）からJR北海道バス（のりば6番）開拓の村行乗車、野幌森林公園前下車
- ・ 自家用車使用の方には野幌森林公園駐車場（有料）がありますが、当日は混雑が予想されますので、参加者はなるべく公共交通機関をご利用ください。

11 その他

- (1) 小雨決行
- (2) 参加料無料
- (3) 昼食持参のこと
- (4) 双眼鏡、植物図鑑等（お持ちの方）の用意

嵐山ビシターセンター
友の会

turap
ビシター

の会

入会申し込み

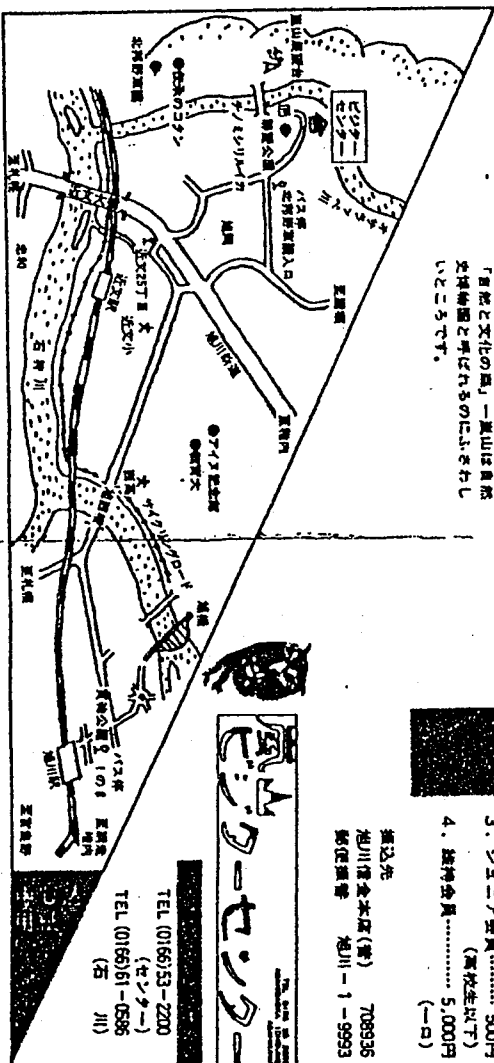
ARASHIYAMA
VISITOR
CENTER
FRIENDLY
CLUB

「フレンド」とはアライズ股で、オオウバユリのこと

体汗自然空間・交感天然体

出会いと、発想のフィールド
君のノートの主役は、ななに.....

嵐山は、旭川市の中心部から約7kmの距離にあり、面積は、約680ヘクタール、その70%が天然林で三方が川に囲まれています。
嵐山は、けもの、鳥、昆虫、植物などの自然の宝庫です。アライズの人は、チノビシター（嵐山動物）と呼んでいました。
「自然と文化の島」、嵐山は自然史博物館と呼ばれるのにおおしです。



旭川電気鉄道バス 停(0166)32-2161
乗場——市内1条B丁目西之アパー卜前
③春 北郊野東園入口下車.....徒歩約10分

③春 近文志丁目下車.....徒歩約20分
JR 近文志下車.....徒歩約30分
嵐山ビシターセンター 旭川市旭川1丁目オサラチ川左岸 TEL:53-2200

会員

ビシターセンターでは、嵐山の豊かな自然環境をテーマにいろいろな催しをおこなっています。たとえば、自然観察会、登山会、スチーフオウチング、ミニコンサート、子供野外制作会など、など.....
友の会々々員には、これらの催しの案内と会報「フレンド」を配布します。
おたのしみに.....

開館日時

4月来—10月来
木・金・土・日 (休館日：月・火・水)
AM10:00—PM4:00

会費

1. 家族会員..... 3,000円
2. 一般会員..... 2,000円
3. ジュニア会員..... 500円 (高校生以下)
4. 賛助会員..... 5,000円 (一泊)

振込先
旭川信金本店(普) 708936
郵便振替 旭川—1-9993



TEL (0166)53-2200 (センター)
TEL (0166)61-0586 (石川)

入会日 年 月 日	送金方法 1. 持参 2. 銀行振込 3. 郵便振込 4. 現金書留	会員の種別 1. 家族 2. 一般 3. ジュニア 4. 賛助	生年月日	住所	氏名 フリガナ
--------------	--	---	------	----	------------

1989.4.23

自然観察交流の拠点に

ビジターセンターが完成

旭川・嵐山

【旭川】地元自然愛好者らがつづけた民営の「嵐山ビジターセンター」が、旭川市郊外の嵐山(二五三三)に入り口に完成して、二十九日にオープンする。嵐山一帯の自然観察の拠点となるだけでなく、文化交流の場として市民に無料開放される。

このセンターは旭川自然史懇話会(代表・出羽寛旭大助教)を中心とした設立委員会(三十三人)が、一昨秋に着工した。メソ

バーの自己資金五百五十万円に道民や民間団体の寄付道などの助成を加えて、カナタ産マツ材を自力で組み上げた。高床式二階建て延べ百平方メートル、一階は標本棚や立地地図、カウソターを備えたレクチャールーム、二階は小会議室と資料室がある。開館は四月下旬から十月末までの毎週水曜日・日曜日とし、二人のボランティアレンジャーが訪れた人たちに嵐山に関する情報を提供して、観察会などを指導する。会報「ドレ乙(アイヌ語でオオウバユリの意味)も発行し、フッポウソウをきく会やオサラッペ川探検、野外舞踊なども企画する。



木の香も新しい嵐山ビジターセンターの内部。

は事務局長の石川悦子さん。センターは☎01666・501666。3・2200。



山本

と風山と親しむ会が、共同で旭川市と豊川町旭川自然史研究会やフックワウ(コノハスク)を兼ね、秋の虫を眺め、行った。自然史研究会の自然史博物館、旭山・自然史会、スター・ウォッチング

旭山ピクチャーセンターで 目指すもの

旭山ピクチャーセンターは、旭山と親しむ会が、共同で旭川市と豊川町旭川自然史研究会やフックワウ(コノハスク)を兼ね、秋の虫を眺め、行った。自然史研究会の自然史博物館、旭山・自然史会、スター・ウォッチング



南 尚貴

昭和56.7.10

自然との夢ある付き合い より楽しく、深く

と文化の産物と見做す。その中で最大のものは、まき、木、刀物の産物である。また、その中でも最大のものは、まき、木、刀物の産物である。また、その中でも最大のものは、まき、木、刀物の産物である。

センターの活動は、夏、秋、冬、春と、季節ごとに、自然史研究会と共同で、自然史博物館、旭山・自然史会、スター・ウォッチング

センターは、旭山と親しむ会が、共同で旭川市と豊川町旭川自然史研究会やフックワウ(コノハスク)を兼ね、秋の虫を眺め、行った。自然史研究会の自然史博物館、旭山・自然史会、スター・ウォッチング

センターは、旭山と親しむ会が、共同で旭川市と豊川町旭川自然史研究会やフックワウ(コノハスク)を兼ね、秋の虫を眺め、行った。自然史研究会の自然史博物館、旭山・自然史会、スター・ウォッチング

あさひかわ



今、やっとならプロを打ち終えました。白々と夜は明けています。原稿をいただいて2週間もたってしまいました。「どうしてもっと早く取り組みなかつたのだらう・・・奇蹟していただいた方に失礼だな」何度か編集作業をしていて原稿をかすめました。原稿を書いていただいたのは、6月上旬くらいではなかったでしょうか。あらためて編集作業の遅れを奇蹟していただいた方と読者の方にお詫び致します。次回からは十分心して取り組みたいと思います。今後とも協力いただきとどしと奇蹟いただければ幸いです。 — 山七 —

編集後記